

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072800321
法人名	特定非営利活動法人 さくら
事業所名	グループホーム さくら
所在地 (電話番号)	福岡県中間市中尾三丁目10番25号 (電話) 093-246-0260
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年10月17日

## 【情報提供票より】(平成21年9月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.6人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> 改築
建物構造	軽量鉄骨平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,500 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年9月9日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩尾内科医院、高村歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にホームがあり、玄関前に駐車場、道をはさんで地区の公民館がある。玄関は鍵をかけることなく自由に入出入りができ、共同生活のメインスペースである居間は天井が高く、明るい日差しが差し込み、開放感があって利用者がゆったりと過ごされている。利用者と共に作業が出来るキッチンや、洗濯室・トイレ・浴室も十分な広さが確保され、車椅子対応となっている。ホームは自分らしく生活したいと思う気持ちを尊重し、安心して暮らせる環境づくりを目指し、普通に暮らせるよう見守っていくという開設時につくった理念が活かされ、穏やかに老後をすごせる第二の我が家となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は理念の共有と日々の取り組みについて改善課題となっていた。週1回のミーティングや日常業務において職員全員が理念についての意識づけができ、実践に向けて取り組みが出てきている。評価の意義の理解と活用については職員の入れ替わり等があり、全員での取り組みが出ておらず、改善はされていない。同業者との交流を通じた向上についても、管理者までは交流が出ていないが、他の職員については交流の機会がなく、改善はされていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対する取り組み状況としては、管理者と介護支援専門員とで自己評価を行い、職員全員での話し合いや取り組みが出来ておらず、評価の意義やねらいが活かされていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は利用者・家族・市の職員・地域包括支援センターの主任等の参加で、2ヶ月に1回開催されている。ホームでの行事・連絡・利用者の状況・協力医の報告、家族の要望等を聞き、意見交換を行っている。管理者は地域で民生委員や自治会等との交流が出来ているが、運営推進会議への地域住民の参加の呼びかけや働きかけがなされていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>毎月、利用者の家族が訪問され、面談の場を設けて、意見・苦情・不安等を気軽に何でも伝えられるように心がけている。今まで投書されたことはないが、玄関に投書箱を設置し、家族から得られた意見等をいつでも受け止め、サービスに活かせるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の盆踊りや清掃等の行事に参加したり、民生委員との交流や自治会に加入し、地域の方にホームのことを知ってもらうため「さくら便り」を回覧し、地域の人との交流に積極的に努めている。</p>

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしく生活したいと思う気持ちを尊重し、高齢者・障害者・その家族の方々が安心して暮らせる環境づくりを目的とし、その生活支援を通して、心豊かな町作りに寄与し、生き活きとした地域福祉に貢献したい、という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示している。常に理念が意識されており、ミーティングや日常業務に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩中、近隣の人と気軽に挨拶を交わしたり、話をしたりしている。地域の一員として、自治会に加入し町内の行事(盆おどり・清掃等)に利用者と一緒に参加している。また、ホームの花火大会にも呼びかけを行い、地域のひととの交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価や外部評価の意義を理解しているが、全職員が関わっての自己評価票作成はなされていない。	○	全職員が自己評価・外部評価の意義やねらいを理解し取り組むことでの、評価を活かしたサービスの質の向上につながることに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、ホームでの行事・利用者の状況・協力医の報告・家族の要望等を利用者・家族・市の職員・地域包括支援センターの主任等が参加し、行われている。運営推進会議ではそれぞれの参加者の意見や地域での理解・支援を得るための機会であるが、地域での代表者の参加が出来ていない。	○	運営推進会議は地域の一員として、ホームをよく知ってもらう機会でもある。地域住民の参加が得られるように積極的に働きかけ、協力が得られるように努める必要がある。また、意見交換や質疑応答等の記録も望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段から市役所や包括支援センターとの行き来があり、顔なじみになって連絡や確認・相談等を行っての交流が出来ている。交流を通じて、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について外部研修に参加し、職員全員で学習をし学ぶ機会を作っている。契約時には地域権利擁護事業や成年後見制度の説明を家族にも行っている。現在、二名の家族に活用できるように支援をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の家族が訪問され、その時に暮らしぶりや状態等を報告している。金銭管理についてはホームで立替をし、月末に支払いをされる。ホームの行事や職員の異動等についても訪問時には必ず報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族の訪問時に意見・不満・苦情・要望等を気軽に言えるような場を設け、意見を出しやすいように努めている。今まで意見・不満・苦情を投書されたことはないが玄関に投書箱を置き、いつでも運営に反映できるようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職が利用者や家族にとって重大な事と十分に理解しているが、この一年は職員の入れ替わりが多かった。そのため、利用者や家族に説明をし、離職の時期や引継ぎ期間をとり、利用者へのダメージを防ぐよう努めてきた。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	運営者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。研修や学習会等の参加にも、向上心を持って働けるよう勤務調整に柔軟に対応している。職員が自分のための休暇や社会参加がしやすいように配慮されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者を尊重するために人権教育、啓発活動に取り組んでいる。職員が外部研修等に参加し、その内容をミーティングで話し合っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	包括支援センター主催の研修に2ヶ月ごとに参加し、ミーティングを通して、学習会等を行っているが、職員の入れ替わりがあり、職員を育てる取り組みまでは出来ていない。	○	管理者は職員の質の確保・向上に向けた育成が重要であると認識しているが、職員の入れ替わりが多く、段階に応じての研修参加が難しい状況であった。今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、管理者は研修会等を通じて同業者との交流や情報交換等を行っているが、職員同士の勉強会や交流までには至っていない。	○	同業者との交流は、職員の質の向上・育成についても重要であり、今後は職員も交流できる機会を持ち、サービスの質の向上を目指せるよう期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院やデイサービス等に行き、面談や情報を収集し、家族から今までの生活等を聞き取り、相談しながら協力を得るようにしている。家族の方と一緒にお茶を飲み、にホームに来ていただき、徐々に馴染めるよう配慮し安心して入居できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から昔の話を聞かせてもらったり、また茶碗のふき方・洗濯物のたたみ方・食材の切り方等を教えてもらったりして、1日を過ごしている。職員が一方的に支援する立場にならないように、利用者を尊重し、共に支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話をする中で、また日々のケアの中で本人の意向や思いを聞いたり、家族からも聞き取りを行い、一人ひとりの暮らし方の希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングでそれぞれの職員が課題やケアのあり方について意見を出し合い、家族来訪時には家族から意向を聞き取り、介護計画作成担当者がそれらを反映した介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者や介護計画作成担当者は見直し以前に対応出来ない変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成しなければならないことを理解している。過去には見直しを行ったケースもあるが、最近では期間前に見直しの必要がある程、変化が生じた利用者はいない。期間ごとの見直しは行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に提携医以外の受診は、家族対応をお願いしているが、家族が都合が悪く行けない時は、職員が受診同行をしている。また自分の希望する美容室に行かれる利用者で、送迎だけで済む方については、職員が送迎の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診は提携医の受診をお願いしているが、それ以外は、本人や家族が希望されるかかりつけ医への受診が受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルは行わないと契約時に話し合っている。口からの摂取ができなくなった場合は、退所をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳は保たれており、一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような声かけは行われていない。記録等の個人情報は事務所に保管されており、個人情報の漏洩がないように配慮されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、一人ひとりのペースを大切にし、その日、その時の希望や思いを出来る限り優先し、希望に添った支援ができるように柔軟に対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、食事の下準備や下膳等職員と会話を交わしながら一緒に行っている。食事は必ず職員ひとりが同じテーブルにつき、同じ物を一緒に食べながらさりげない支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、木、金と週4回入浴日を設定し、一人の利用者が週2回入浴が出来るように、曜日が組まれている。入浴設定日以外に入浴の希望があったり、自分の入浴日以外に入浴の希望がある場合は、希望に添い入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かし、調理の下準備、下膳、茶碗拭き、庭の花壇の草取り・水やり、新聞や洗濯物たたみ、また月2回のカラオケ教室や、貼り絵、塗り絵、碁、トランプ等役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の希望がある時は、希望に添って散歩の同行をしている。また季節によって花見や外出行事を計画し、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は気配り、目配りをする事で、鍵を掛けていない。夜間帯は夜勤者が一人になるため、防犯のために19時から翌朝6時30分まで鍵を掛けている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者で職員による避難訓練を行っている。21年は3月に1回行い、11月に2回目を行う予定である。火災時の連絡体制や役割分担が不明確である。	○	避難訓練は行われているが、役割分担や連絡体制が不明確である。新しい職員も多く早急に役割分担や、連絡体制作りが求められる。また夜間想定訓練や、地域の人々の協力が得られるように運営推進会議等を通じての働きかけが求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取量を毎回記録し把握できている。また利用者の状態に応じ食事の形態を変え、栄養や水分量が確保できるように配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所、洗面所、浴室、トイレ等は広めに取られており、適度な光が入り、居心地良く生活が出来るように工夫をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、それぞれ好みのタンスやテーブル、椅子等思い思いの物が持ち込まれたり、家族の写真や装飾品が飾られ本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>		